

平成28年度東アジア文化都市 青少年交流事業 感想紹介

参加都市	感想
新潟	人見知りだったが、勇気を持って、中国人、韓国人だけでなく日本人にも話しかけ仲良くなれた。コミュニケーションを取る上で英語の大切さを実感した。国同士の関係が悪い中でもこのように高校生同士の交流を続ければもっといい話が聞こえてくるのではないかな。
清州	ルームメイトと色々な話をする事ができた。国は違っても悩みや考えていることは同じだと思った。日本人と中韓の人の違いは「人との距離感」。中韓の人は誰とでも積極的に仲良くなり羨ましかった。
清州	初めての海外、外国人との交流だったが、参加して経験と自分への自信を得ることができた。文化の共通点や相違点を感じた。視野が広がった。
清州	はじめは、日本人も含めて仲良くなれるか不安だったけど、すぐに仲良くなれた。ルームメイトの中国人とはどうやったらうまく伝わるか考えながらコミュニケーションを取ったので、普通に会話をするよりお互いを分かり合えた気がした。
青島	本格的に英語を学びたいと思った。書道体験でみんなで「和」の文字を書き、一つになれた気がした。
清州	最も印象に残ったのは韓紙づくりとはしづくり。大切なことは、全力で相手を理解しよう、伝えようという気持ちだということが分かった。東アジアの平和と発展のために自分が役立てる方法を考え、実行しなければならない。
新潟 青島	自分の目で確かめもせず、マスメディアの情報のみで、中国、韓国の印象を決めつけてはいけない。どの国でも良い面、悪い面がある。将来、日中韓をつなげるようなことをしたい。
青島	私たちはこんなにすぐに仲良くなれるのに、国同士ではうまくいかなくなるのが残念。将来は国同士を仲良くさせる架け橋になりたい。
新潟	中国の学生は英語が堪能で驚いた。英語の重要性を感じた。韓国語も勉強したい。新潟についても新たに発見があり、とても良い経験になった。
新潟 青島	たくさんの友達ができ、中国、韓国の参加者とお互いの意見を本音で言い合える貴重な機会だった。国同士はまだ問題があるが、これからさらに交流を深め、相手の国を正しく知り、その上で話し合いをしていくべき。
新潟	中国と韓国の人と話すのが初めてで不安もあったが、打ち解けることができ嬉しかった。最初は全く知らない他人同士だったのに、3日後には大切な友人になっていた。将来は日本と韓国をつなぐ仕事に就きたい。
青島	中国に対する見方考え方が変わった。ニュースなどで良くないイメージがあったが、会う人みんなが優しく、自国のことについても知識がないことに気づき、日本についても学ぼうと思った。
青島	見える町並み、流れる空気、そこに暮らす人、すべてが新鮮だった。どれだけ言葉を話せるかよりも、自分にどれだけ相手のことを知ろうとする意志があるか、また相手に自分のことを知ってほしいと思う意志をどれだけ持っているかが大事だと気づいた。
清州	改めて音楽や芸術に国の壁はないと感じた。韓国の学生とダンスの発表のための練習を朝晩したとき、腹の底から笑いあったことが代えがたい思い出となった。
青島	会う人や見るもの全てから刺激を受けて成長することができた。初めて外国の友達ができ、
青島	韓国の学生の勉強に対する意識の違いを感じた。語学もそうだが、国際的な社会問題にも一人一人がしっかりと自分の考えを持っていた。また参加したい。
新潟 清州	新潟の良さをばっと答えることができなかった。他国の方と仲良くなる為には、こちら側の魅力を伝えなければ相手にしてもらえないのではないかと感じた。中国・韓国の方は自分の意見を周りに伝える意思が強いと感じた。国を繋ぐ架け橋のような存在になりたい。
青島	交流を深めるごとに多くの新しい友人ができ、毎日が満ち満ちていた。そして、その友人たちの考え方は私に新しいものの考え方を教えてくれた。
青島	限られた時間の中で、意義のある交流をするには遠慮とか恥ずかしいか思っている時間さえもったいないと思った。謙虚はNG。友達ができ別れが惜しかった。友達になることに言葉は必要なかった。

新潟	カレー作りをきっかけにグループの会話が増えた。コミュニケーションが取れず歯がゆい時間もあったが、言葉の壁を乗り越えた時の一体感は忘れられない。
青島	言葉が通じにくい環境の中で、コミュニケーションの根本は相手を気遣うことだということに気づいた。私たちは言葉が通じることに慣れてしまって、大事なことを忘れてしまっていると感じた。
清州	教科書ではわからない、実際に体験して感じる文化の違いに触れることができて良かった。身に沁みついた習慣の違いは確認できても理解は難しい。まずは「認める」をキーワードに異文化と関わりたい。
清州	韓国のルームメイトと少しの英語とジェスチャーでコミュニケーションを取った。現在も連絡を取っていて、今度日本に行くと言ってくれているので、もっと勉強して日本を好きになってもらえるようなおもてなしがしたい。
清州	3か国は政治上の問題があるのに日本に対して良い印象を持っている人が多く驚いた。最初は言葉が通じないことに不安を感じたが、ジェスチャーを交えながら会話することがとても楽しく、通じた時はお互いに喜び合った。
清州	日本と中韓の文化と比べて、似ているところや違うところを感じることができた。4日間の体験で中国と韓国が好きになった。このことを多くの人に伝えたい。
清州	海外に行くということや海外の人と交流するということに少しためらいがあったが、一度勇気を出して交流してしまえば、相手の国の様々なことを学べるし、友達を作ることができた。今回の交流から、行く勇気が大切だということ、自分から気持ちを伝えに行くことが大事だと学んだ。
新潟 青島	住んでいる国が違って、話す言葉が違って、慣れ親しんでいる文化が違って、今回のような文化交流の機会を通じ、同じ活動を共に体験していくことで、お互いに対する既存のイメージが変わったり、予想もつかないような新たな良い出会いや経験をすることができると感じた。
新潟 青島	間違ってもいいから日本語以外の言語で積極的に話そうと努力した。言いたいことを伝えられたとき、大きな喜びを感じた。中国の町の情景、匂い、空気、現地の人の様子を、実際に自分の目で見て全身で感じることでよかった。
新潟	自分の意思を伝えようと努力することが大事だと感じた。また、相手を理解しようという気持ちがあつてこそ、意思が伝わることを実感した。新潟の良さも改めて感じることもできた。
清州	日韓の文化の相違点、共通点は古典的な文化、異なる点は食文化だと感じた。韓国人にあって日本人にないものは、愛国心と自国理解であり、自国の理解なしには他国の理解は難しいと感じた。
清州	韓国の人は伝統や文化をととても大切にしていることがわかった。この研修を通じて、中韓の文化に対し新しい発見や驚きがあったが、その違いを楽しむことができた。
新潟	まだ自分の知らない新潟の魅力があることに気づいた。新潟の文化に楽しそうに触れている中国、韓国の参加者を見てもっとこの魅力を多くの人に知ってほしいと感じた。将来新潟の魅力を発信する仕事をしたい。